

2016年5月2日

日本体育・スポーツ哲学会員各位

日本体育・スポーツ哲学会員事務局
E-mail: office@jsspspe.jp

日本体育学会・体育哲学専門領域定例研究会について（案内）

定例研究会の案内が日本体育学会・体育哲学専門領域より届いています。興味のある方は、以下を参考に、積極的に参加してください。出欠の連絡は阿部先生（東海大学）宛てにお願いします。

定例研究会のお知らせ

阿部 悟郎(東海大学)

平成 28 年度第 1 回定例研究会を 2016 年 5 月 21 日（土）に下記の要領で開催いたします。研究会終了後 18 時 30 分より懇親会を予定しております。会員の皆さま、ぜひともご参集ください。なお、当該年度定例研究会でのご発表等に関するご要望等につきましては、阿部までお寄せ下さい。

- ・日 時：2016 年 5 月 21 日（土）15：10～18：00（予定）＊15:00 から入室可能です。
- ・会 場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー7階・1075教室

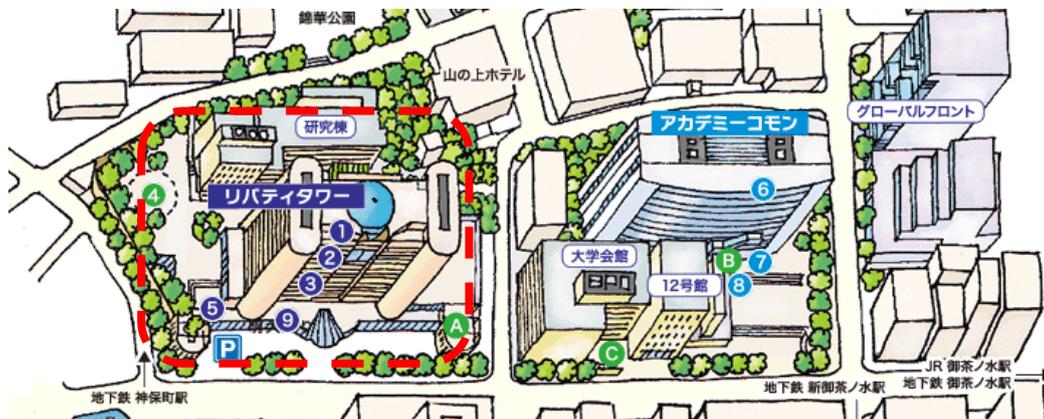
詳細は下記 URL をご参照下さい。（キャンパス詳細図は下）

http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/6t5h7p000001h0z0-img/720_campus_suruga.gif

JR 中央線・総武線，東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩 3 分

東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩 5 分

都営地下鉄三田線・新宿線，東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩 5 分



発表内容（予定）

【発表①】教師の必要条件—武道の無心とヨブ記を考える立場から—

照屋 太郎（会員）

本研究の目的は、生徒が生徒自身を学ぶ時、教師の必要条件は何か、を明らかにする事である。本研究の方法は、武道の無心を考える剣の伝書、その思想的背景の中国の哲学書、中国の哲学書と同時代の西洋の文献、に基づき考える事である。

生徒が生徒自身を学ぶ、とは伴う苦しさに耐え生徒がその生徒の本質を今までよりも学び、得た経験事実に基づき考え、その生徒らしい生き方を創る事である。本研究は、その為に教師が満たすべき条件を明らかにする。

【発表②】柔道の文化変容に関する研究—柔道と JUDO のパラドックス—

佐藤 雄哉（国士舘大学大学院）

1882 年、嘉納治五郎によって創設された柔道は、その国際化の過程で変容しつつも、特にオリンピック種目として採用されて以降、飛躍的に世界に普及し、現在では約 200 の国と地域が国際柔道連盟 (IJF) に加盟している。しかしその加速的な国際普及は、伝統文化としての柔道とスポーツ競技としての JUDO という一見対峙する二つの概念を生み出すことにもなる。本研究は、柔道と JUDO のパラドックスそのものが特徴付ける武道の奥深さ、すなわち文化変容に直面する身体技法としての柔道の本来性について再評価する試みである。

【発表③】日本剣道 KENDO と韓国剣道 KUMDO の相克—未来志向の剣道文化を求めて—

小田 佳子（東海学園大学／中京大学大学院）

日本剣道 KENDO と韓国剣道 KUMDO は、剣道文化のヘゲモニー（主導権）をめぐる宗主国争いを展開している。あくまでも日本剣道の「国際的普及」とする全日本剣道連盟と、剣道の「国際化」を標榜する韓国剣道の相克である。日本剣道そのものを世界に発信し定着させようとする「文化普遍主義的な方向性」の試みと、国際的な広がりを持つ剣道の相互承認の試みである「文化相対主義的な方向性」の 2 つ視点を方法論として、双方の主張や対立を、歴史、文化、技術の側面から捉え検討した。さらに、この相克を超えた未来志向の剣道文化の方向を探った。

【発表④】身体としての体育教師：メルロ=ポンティの身体論に基づく体育教師論再考

坂本 拓弥（明星大学）

本発表の目的は、従来の体育教師論を批判的に検討し、〈身体としての体育教師〉という在り方を明示することである。メルロ=ポンティの身体論は、人間が現実の世界を生きるなかで身体が担う根源的な働きに着目し、その意味を論じている。本発表では、彼の身体論の視点から、体育授業において体育教師は児童・生徒とともにどのように生きているのか、そしてそのとき、体育教師の身体はどのように在るのかを検討する。なお、本発表の内容は、平成 27 年度に東京学芸大学に提出した博士学位論文の内容に基づいている。

阿部 悟郎 (gr-abe@tsc.u-tokai.ac.jp)